

## 「ながさき大くんち展」開催趣意書

「長崎くんち」は、鎮西大社諏訪神社の秋季大祭として寛永11年（1634年）から続く長崎を代表する祭りで、国の重要無形民俗文化財に指定されています。例年10月7日からの三日間は、各踊町による異国情緒豊かな演し物などの創意工夫された豪華絢爛な奉納踊りが披露され、長崎固有の伝統芸能として市内外の多くの人に親しまれています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大によって、3年続いての中止が決まり、開催に向けて準備を進めてきた踊町や関係者皆さんにとっては苦渋の判断であったとともに、今年こそはと楽しみにしていた市民の落胆は大きなものとなりました。3年間の空白によって、長崎の祭りに対する記憶や関心が薄らぎ、市民が育んで来た風習の風化などが懸念されます。

また、「長崎くんち」のこれまでの歴史を振り返ると、決して平坦なものではなく、その時々为社会経済情勢による幾多の困難を乗り越えて、今日まで受け継がれて来ました。更に、原爆投下や長崎大水害など、長崎が甚大な被害を受けた際には、被災からの復興に励む市民の心の拠り所としての役割も果たして来ました。

感染症拡大の長期化によって、市民生活や社会経済活動での閉塞感が続く今こそ、「長崎くんち」を足掛かりとしたコロナ禍からの回復への加速化が必要です。

こうした状況に鑑み、43の出演踊町に呼び掛け、全踊町の演し物や傘鉾などを一堂に展示するなど空前絶後の「ながさき大くんち展」を開催することと致しました。

このイベントは、踊町関係者皆さんの熱い想いと心意気により、実現の運びとなりましたし、経済界からの賛同と長崎市からの支援も検討していただいているところです。こうした官民が一体となった取り組みが、市民の元気と活力への後押しとなれば幸いです。更に、この機会に、未来を担う子供たちや市内外の多くの方に「長崎くんち」の素晴らしさと長崎独自の歴史文化への理解を深めてもらうことを期待しています。

また、西九州新幹線開業やデスティネーションキャンペーンと連携した長崎の魅力を発信するイベント企画とし、来年の「長崎くんち」本番開催への機運を盛り上げるとともに、今後の交流人口拡大につなげて参りたいと存じます。

つきましては、本イベントの開催趣旨をご理解の上、格段のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年8月

長崎伝統芸能振興会

会長 宮脇 雅俊

(長崎商工会議所会頭)